

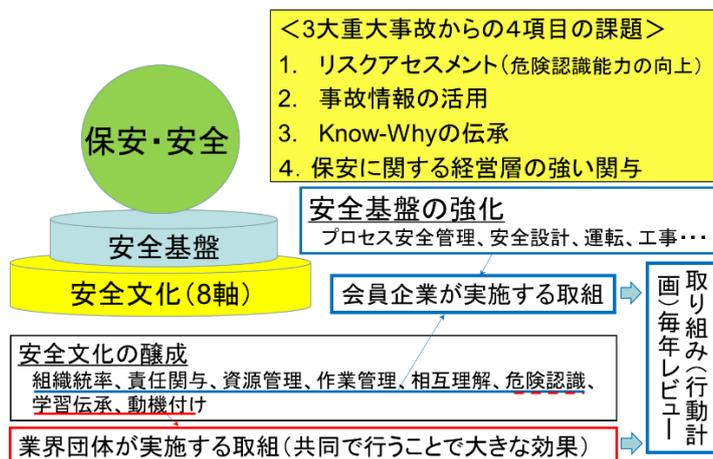
産業保安に関する行動計画の進捗状況

石油化学工業協会
2017年3月23日

石油化学工業協会では、2011年～12年にかけて会員企業が起こした3件の重大事故（塩ビモノマープラント爆発火災、レゾルシンプラント爆発火災、アクリル酸タンク爆発火災）を踏まえて、2013年7月に業界団体としての「産業保安に関する行動計画」を定め、毎年、前年度の状況について確認を行い、見直しを図っている。

2016年度の計画は、前年の実績を踏まえて策定し、昨年6月に公表した。現在、2016年度の実績取りまとめ作業を行っている最中であるため、暫定版として2016年度実績をご報告する。なお、実績の最終版および実績を踏まえた2017年度の計画は、2016年度期末である5月末に石化協ホームページにて公表予定。

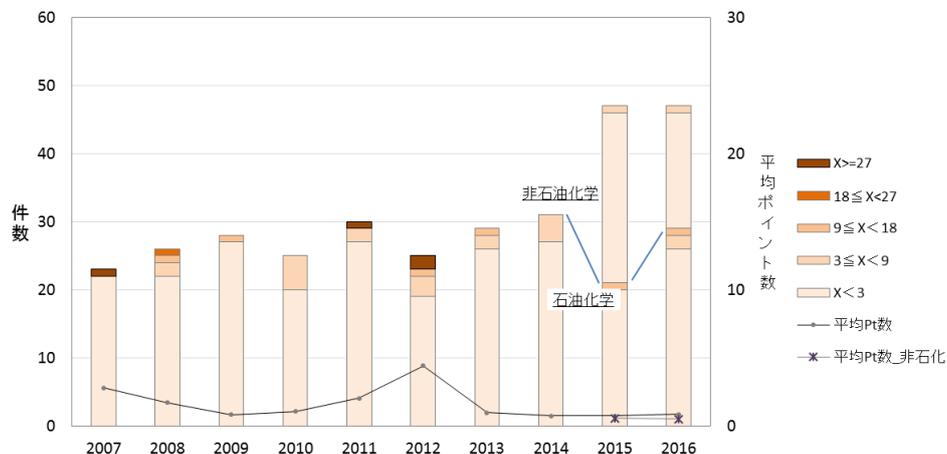
1. 産業保安に関する行動計画の基本的な考え方



2. 「2016年度産業保安に関する行動計画」の実績（暫定）

1) 事故の発生状況

(1) 保安事故

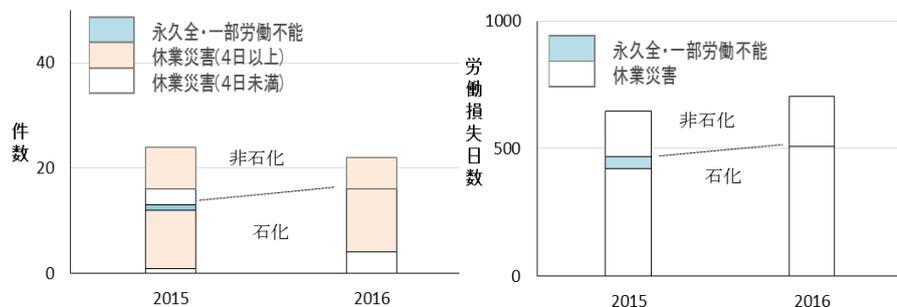


2015年度から事故の把握範囲を会員の石化事業所から全事業所に拡大。

2016年度は、前年度に引き続き18ポイント以上の重大な保安事故無し。

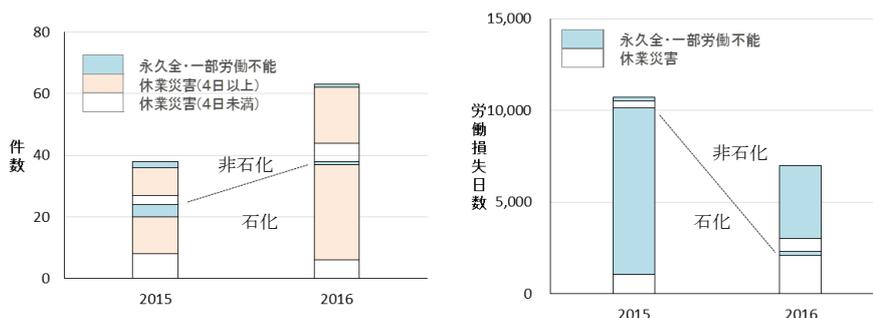
(2) 労働災害発生状況

①従業員



重大な労災の発生はないが、転倒（滑った、転んだ）、被液による薬傷が全体の70%を占める。

②協力会社



従業員同様に重大な労災発生はないが、転倒、巻き込まれ・はさまれ、転落・墜落（トラックの荷台、梯子踏み外しなど）ので全体の70%を占める。

2) 会員企業が実施する取組のガイドライン

- (1) 経営者の産業保安に対するコミットメント
- (2) 産業保安に関する目標設定；2016年度目標；重大事故ゼロ→達成
- (3) 産業保安のための施策の実施計画の策定
 - ①リスクアセスメントに関する取組み
 - ②事故情報の活用に関する取組み
 - ③技術的背景(Know-Why)の伝承に関する取組み
 - ④保安の基盤としての取組み
- (4) 目標の達成状況や施策の実施状況についての調査及び評価
- (5) 自主保安活動の促進に向けた取組み

3) 業界団体が実施する取組み

「経営層の保安に対する強い関与」および安全文化を構成する8軸のうちの「学習伝承」と「動機づけ」を中心に取組み

(1) 経営層の保安に対する強い関与

現場に最も近い経営層である事業所長の意見交換会

(周南コンビナート 4月、川崎コンビナート 12月、関西地区 6月予定)

(2) 安全文化の醸成

① 学習伝承

三つの共有化(事故情報、経験、保安の取り組み)について精力的に活動

(a) 事故情報

(保安事故)

- ・WGで解析し、会員各社の教訓となる内容を明確にして協会内で共有化
- ・最大ポイント事故(9.3) ; 電気工事で手順を誤り地絡、アークにて4名火傷、人的影響9 + 設備影響0.3 = 9.3

(労働災害)

- ・WGにて内容を精査。従業員、協力会社とも行動に伴う転倒等の事故が多く今後の課題

(b) 事故事例巡回セミナー開催

(c) 保安への取り組み

保安推進会議(10月20日)開催 ; 会員5社から自社の優良事例紹介、
ヒューマンエラー防止への取り組み講演

保安研究会(18回/年) ; 7保安研究会にて現場課長の情報交換会、事故事例の研究(危険認識能力の向上)

② 動機付け

優秀な安全成績をおさめた保安功労者15名に対して10月20日に保安表彰

3) 産業保安に関するスマート化に向けた取り組み

- ・IoT、ビッグデータなどの活用、新たな制御システムなどに関する講演

4) その他

① 東京、四日市・岡山大で「産業安全塾」を展開

東京産業安全塾 ; 石化協・石連・日化協の会員対象とし3団体の共催、将来の幹部候補生育成年末年始を除く毎週火曜日の16:00-18:00で全15回

四日市産業安全塾 ; 三重県が主催、四日市防災協および東京産業安全塾が協力、工場の幹部候補生育成。6月~8月で15回の講義

岡山産業安全塾 ; 岡山大学が主催、水島防災協および東京産業安全塾が協力、工場の幹部候補生育成。10月~3月で14回の講義

② 津波防災の日の講演会開催

3. 「2017年度産業保安に関する行動目標」の基本方針

産業保安に関する行動計画の基本的考え方および2016年度の実績を踏まえ、特に以下の点に留意して2017年度の計画を立案する。

(1) 重大事故ゼロへの取り組み

- ・ 事故情報の共有化

重大事故ゼロの継続、および重大事故ゼロの目標達成のために、会員各社にとって教訓とすべき内容を加えた事故情報の共有化（保安事故、労災事故ともに会員企業の全事業について共有化）

- ・ 事件事例研究の継続

(2) スマート保安・新たな技術への取り組み

(3) トップダウンとボトムアップを組み合わせた活動

- ・ トップダウン；保安に関する経営層の強い関与
- ・ ボトムアップ；学習伝承、動機付け

(4) その他

- ・ 産業安全塾の充実
- ・ プロセス事故防止に関するCCPS国際会議への参加（9月12～13日@岡山）

ご参考

2017年の行動目標；

本年5月末に2016年の実績及び2017年計画を石化協ホームページ（<http://www.jpca.or.jp/>）の環境安全の欄にアップする予定。

以上